

令和3年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立福島高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	校訓「正大」「剛毅」「優美」を胸に、自己実現のために努力を重ねるとともに、身に付けた豊かな人間力で社会に貢献する高い志を持つ人を育成する			A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
【成果】 ・新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、徹底することができた。 ・学校再開後、45分×8時間授業を実施するなどの取組により、授業時間を確保できた。コロナ禍においても生徒は落ち着いて学習に取り組んだ。 ・「できない」とあきらめるのではなく、できる方法を職員と生徒が一体となって考え抜く機会となった。 【課題】 ・コロナ禍の制約の中、本校の教育活動の外部への発信が不十分であった。	教育内容の充実と生徒の可能性を引き出す指導	個々の教育活動の目的や意義を明確化し、常に校訓を意識した指導を行うことで、校訓(不易)を礎に新しい流れ(流行)を創り出し、高い道徳的実践力を持った生徒を育成する。生徒の特性や実態を踏まえ、「わかる授業」と「多面的な評価」を追求することで授業の質を高め、生徒の学習意欲と学力を高めるとともに、誠実さや努力が評価される学校づくりに努める。		
	失敗を恐れず挑戦する気風を醸成し、生徒の自己肯定感を高める指導	部活動や生徒会活動、学校行事や探究活動などあらゆる機会を捉え、様々な「考えさせ、させてみる」体験をとおして、多様な生徒、これから芽を出す生徒の可能性を引き出し、生徒の達成感や自己肯定感を高める。自他を尊重し差別のないより良い社会を実現しようとする態度を育成する。		
	キャリア教育・個別の教育支援の充実	授業を中心とした全体的指導を柱にしながらも、個々の生徒の希望や適性の把握に努め、早期から適切な指導・支援を行う。3年間をとおして系統的かつ探究的なキャリア教育を展開することにより、生涯学び続け、自らの力を使って社会に貢献する志を持った人物を育成する。		
	安全安心な学校づくり 地域との連携の強化(開かれた学校づくり)	地域と連携しながら、感染症や災害など、いつでも起こりうる危機を自分事としてとらえる意識づくりに取り組む。定期的に地域の関係機関と連絡を取り、地域の活動に参加しながら本校の魅力ある教育活動や生徒の姿を積極的に発信するとともに情報収集に努めることをとおして、生徒募集を強化する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教育推進部(教務課)	学力向上(「わかる授業」から「できる授業」へのレベルの向上)	幅広い学力を持った多様な生徒に対応した「分かる授業」を実施するとともに評価の妥当性を向上させる。 「できる授業」を目指した「主体的・対話的で深い学び」を促進する授業を、企画・研修課と連携して実践する。 週課題を各教科の実態に合わせて運用し、学習時間調査(年4回)による検証を行う。	B B A	B
	新学習指導要領における教育課程の編成と観点別評価の推進	新設学校設定教科・科目の目標と学習内容を完成させる。 教科内・教科間の意思疎通の促進を通じた教科横断的指導体制を構築する。 令和4年度入学生に向けた観点別評価を段階的に実施する。(指導と評価の一体化)	A B B	
	「総合的な探究の時間」のさらなる飛躍と継承	「総合的な探究の時間」で育成する探究のプロセス(課題設定、情報収集・分析、まとめ・表現)を各教科・科目内でも実態に応じて実施する体制を整備する。 推進委員会を中心として「総合的な探究の時間」を円滑に運営する。(早めの計画立案、密な連絡調整) 外部機関との連携を強化して探究活動を充実させる。	B B B	
	広報活動の充実	ホームページを定期的に更新し、学校の特色や魅力が伝わるよう工夫をする。 学校のアピールポイント及びイメージが伝わる学校案内を作成する。 学校通信「もちの木」を定期的に発行する。また、ホームページとの連携を図る。 「福高定期便」や中学校訪問を通して生徒に関わる情報交換を行い、中学校との連携を深めるとともに学校の特色についてアピールする。 中学校PTAの来校を受け入れ、本校教育活動への理解と浸透を図る。 中学生に対する学校説明会に参加し、本校教育活動を中学生にアピールする。 県立高校合同説明会や中学生体験入学を、各学科・分掌・係などと調整を図り、充実させる。	B A B A A A	
入試業務の徹底	教員間で共通認識を持てるように情報共有を密に行い、ミスなく入試業務を遂行する。 情報管理を徹底した上で、入試業務に精通した人材を育てる。	A B	B	
				○来年度は3学年ともにClassiが導入されるので、週課題や学習時間調査においてClassiを活用するなど教育活動におけるICT活用をさらに進める。 ○令和5年度から新設の学校設定科目が実施されるので、生徒へのガイダンスを含めスムーズに実施できるように準備を怠りなく進める。 ○観点別評価の実施に当たり、評価のための評価にならないように授業改善につながるよう企画・研修課と連携しながら実践していく。 ○探究のプロセスの反復、探究の深化まで到達できなかったため、各教科との連携が不十分であった。 ○継続的に地域と対話する機会を設けるなど、内容の見直しを行い、地域との連携強化を図る。 ○各学期、各単元毎に組織的に共通認識を図り、全教員がファシリテーターを務められるようにする。 ○ホームページのレイアウトをより分かりやすい形に見直し、それぞれの記事更新の担当者全員で協力して更新頻度を上げる。 ○学校通信「もちの木」の内容を再度検討し、ホームページだけでなくSNSとも連携を図る。 ○「福高定期便」や中学校訪問の実施形態を見直し、中学校でのアピールがより効果的になる仕組みを作る。 ○ホームページとの差別化や有効的な活用方法について見直しつつ、各学科等と連携したSNSの運営を継続し広報活動に役立てる。 ○職員全員が共通認識を持てるよう、情報共有の仕方を再度見直す。その際、変更点等が伝わりやすいよう工夫する。 ○ミスのない入試業務を続けるため、人材育成を継続する。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
	項目ごとの評価
B	学校関係者評価委員会からの意見 ○次年度は一人一台の端末を整備してオンライン学習ができる環境を作っていたきたい。 ○Classiの使い方について、保護者に更なる周知をお願いしたい。 ○「主権者教育」をさらに進め、理解と充実を図ってもらいたい。 ○充実した取組が行われており、評価はAでもいいのではないかと。
	A
A	○ホームページの更新頻度が良好で高く評価できる。 ○インスタグラムやツイッターもほぼ毎日更新され、学校の魅力を十分に発信できている。その成果が本年度の志願倍率に反映している。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
キャリア教育部 (進路指導課)	キャリア教育の推進	外部講師を招いた講演会等を適宜実施し、進路意識の向上を図る。	A	B	<p>○講演会や進路ガイダンスの早期の準備と更なる内容の充実に努める。</p> <p>○学年と連携して計画的なポートフォリオ作成を行い、それに係る担任業務を整理する。</p> <p>○ボランティア活動及びインターンシップ等の在り方を検討し、より効果的に実施する。</p> <p>○課外の在り方を職員間で共有し、その内容の改善を図る。</p> <p>○入試制度等の進路実現に役立つ情報を生徒に分かり易く伝えるために、「進路のしおり」の内容を見直す。</p> <p>○公務員指導者研修会等への積極的に参加し、指導体制の充実を図るとともに、専門学校と連携した課外や土曜講座の機会を設定する。</p> <p>○進路だより発行の目的を進路指導課で共有し、協働して定期的に発行するとともに内容の充実を図る。</p> <p>○進路委員の業務を充実させ、生徒の進路意識向上に寄与する主体的な活動を促す。</p> <p>○生徒の進路意識向上とその実現に向け、進路指導課会議を定期的に開催するなど、情報を共有して組織力を高める。</p>	A	<p>○進路指導については、進学・就職ともに大変よく指導ができています。</p> <p>○公務員試験の合格者が多く、大変よい。</p> <p>○多くの情報の中から、必要なことを生徒・保護者に伝え、良い方向へ導いてもらいたい。</p>
		キャリアパスポートを活用して、自己の振り返りと自己の生き方や進路を考える場を設定する。	B				
		ボランティア活動、インターンシップ等の体験活動を通して勤労感・職業観を涵養する。	B				
	第一志望の進路実現	進路実現に必要な能力の向上を目指した課外授業を立案し実施する。	B	B			
		個に応じた様々な入試制度を積極的に利用させ、学年と連携しながら進路実現の指導を充実させる。	A				
		公務員の合格者を増大させるために、専門学校と連携して課外等の充実を図る。	B				
	進路情報の収集と発信	大学入試改革等の進路情報を収集し、生徒や保護者に向けて情報を発信する。	B	B			
		同窓会や地元企業からの協力を仰ぎ、進路だよりを発行して進路意識を高める。	C				
		進路委員を新設し、各クラスへの情報伝達や進路意欲の向上に資する掲示物作成を行う。	B				
キャリア教育部 (企画・研修課)	目的を明確にした行事の実施	各行事の目的を校訓と照らし合わせ明確にし、実施する意義を浸透させる。	B	B	<p>○各行事を行うに当たり、教員側と生徒側の目的・目標を明確にし、全職員に浸透させる仕組みを見直す。</p> <p>○各行事の計画を早期に立て、課内の役割分担を明確にし、効果的な行事の実行へ向けて一丸となり取り組む。</p> <p>○他分掌・係と綿密に連携を取り、より実施効果の高い行事を実施する。</p> <p>○年度当初の研修計画も踏まえつつ、本校の実状や課題に応じ、他分掌と連携を取り、臨機応変に研修を実施する。</p> <p>○校外研修の広報の仕方を見直す。</p> <p>○図書館利用を活性化するため、図書委員の活動を再考したり、授業での活用を案内する。</p> <p>○プロジェクトメンバー間の連携を高め、学校全体で情報共有できる体制を整える。</p> <p>○活発な授業改善を促すために、授業参観に係る評価票の工夫・改善を行う。</p> <p>○授業アンケートにICT活用や学習環境に関する項目を入れ、生徒から収集した意見を元に授業改善につなげる。</p> <p>○今年度初めて「文化発表会」から「文化祭」へと形態を変更して、本校保護者・中学生及びその保護者を招待して実施した「福高祭」をさらに充実させる。</p> <p>○コロナ禍で2年連続体育大会が実施できなかった状況を踏まえ、次年度の体育大会の形態を今年度中に検討する。</p> <p>○部活動顧問の指導により、部員の主体性を育成する。</p> <p>○いじめアンケートだけでなく、学校の教育活動全般でいじめの芽を摘み、いじめのない学校を目指す。</p> <p>○SNSをはじめとする表面化しづらいトラブルの対処法を検討する。</p> <p>○登下校指導ができるような体制を整える。</p> <p>○交通事故・違反に対する指導措置の見直しをする。</p>	A	<p>○「新たな学びプロジェクト」により教員間の学び合いがあり、大変よい。</p> <p>○課題に即した研修は充実しており、授業や実践発表会の工夫・改善もできている。</p>
		各行事を早期に企画・立案し、各分掌・係などと調整を図り、遺漏なく遂行する。	B				
		新しい職員を含め、全職員が一体となって取り組む体制づくりを行う。	B				
	研修・図書館利用の充実	他分掌との連携を強化し、本校の課題に即した研修を年6回実施する。	A	A			
		校外研修や異校種授業参観などを広報し、参加を促進する。	A				
		生徒・教員ともに図書館利用を活性化させ、深い学びの獲得につなげる。	B				
	新たな学びプロジェクトの最大活用	新たな学びプロジェクトの主旨・テーマを浸透させ、全員が参加者という意識を持たせる。	A	A			
		公開授業や授業参観月間、実践発表会を活用し、PDCAサイクルを重視した授業改善を重ねる。	A				
		教務課と連携し、「きもちにふしめ」の説明や号令指導を通して、生徒が落ち着いて授業に臨める環境を作る。	B				
生徒育成部 (生徒指導課)	部活動・生徒会活動の活発化	部活動顧問を中心に、生徒の能力を最大限に発揮させる指導を行い、生徒の意識を高めて、積極的に部活動に取り組ませる。	B	B			
		部活動・生徒会活動の取り組み・実績をまとめ、生徒募集に生かす。	B				
		リーダーの発掘と育成に力を入れ、体育大会・文化発表会を充実させる。	A				
	問題行動・いじめの撲滅	いじめアンケートを実施し、情報を共有する。	A	A			
		スマホ・ケータイ安全教室を実施して、SNSによるトラブルを発生させない指導に努める。	A				
		福島高校生としての自覚を持たせ、正しい行動ができるように指導する。	B				
	交通事故防止・交通マナーの向上	登下校指導の実施し、交通マナーの意識を向上させ、交通事故0を目指す。	B	B			
		安全教育講習会やバイク実技講習会を実施し、安全に関する意識の向上を図る。	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
生徒指導部 (健康管理課)	生徒および職員の心身の健康の保持増進	各種健康診断を実施し、年度当初における生徒の身体状況の基礎的な把握を行う。	B	A	<p>○各種健康診断については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、時期を下げたり、縮小したりして行ったが、概ね良好であった。次年度も見通しを立てると同時に臨機応変に対応する。</p> <p>○新型コロナ感染防止に向けて、マスクの着用、換気の徹底、黙食等の指導を継続していく。</p> <p>○保健委員会の活動を活発にし、自他の健康を主体的に考える機会を多く設定する。</p> <p>○危機管理マニュアルが全職員に浸透しておらず、形骸化している面があるので周知徹底できるように見直す。</p> <p>○自他の命の大切さを認識させ、部活動・体育的行事等における安全対策の更なる充実を図る。</p> <p>○美化委員会の活動を活発にし、校内美化等について主体的に考える機会を多く設定する。</p> <p>○生徒の個別の教育課題に対する支援については、概ね良好であったが、特別な配慮を要する生徒も増加しているため、更に細やかな指導体制を構築する。</p> <p>○3日連続欠席者に対しては、担任及び学年団との連携を密にとり情報を共有したうえで、不登校生徒への早期対策をとる。</p>
		学校・学年行事等に際して事前健康相談を実施し、生徒の心身状況を把握し報告する。	A		
		新型コロナウイルス感染防止に向けて、啓発活動を行う。	B		
		保健だよりを月1回発行し、健康や事故防止に関する注意喚起を行う。	A		
		性と心の相談事業(1年生対象に性の講演会)を実施する。	A		
	学校管理下での事故防止の徹底	生徒保健委員による救急法(含む熱中症対策)講演会を実施し、部活動や体育大会等の体育的行事における安全対策(熱中症予防対策等)を充実させる。	B	A	
		生徒美化委員を中心に、校内美化と学習環境の整備を図る。	A		
		防災避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。	A		
		学期に1回の校内安全点検を実施し、危険箇所を把握するとともに担当部署に連絡・働きかけを行う。	A		
		危機管理マニュアルを作成・配布し、職員に周知徹底し、危機管理体制を整える。	B		
	担任・学年・教育相談委員会の連携・協力体制の確立	様々な問題を抱えた生徒に対し、学校全体で支援等を検討するために『教育相談委員会』をSC来校に合わせ月1回開催する。	A	A	
		生徒の保健室利用状況をクラス担任に毎日報告する。	A		
		3日連続欠席者に対して、実態に応じて担任・学年団により家庭訪問を実施する。	B		
		SC・SSW・訪問相談員による相談事業を実施する。	A		
		修学支援・特別支援コーディネーターによる業務を支援する。	B		
第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、時間の厳守(5分前行動)、服装を整える、清掃をきちんとするなど基本的なことを徹底して指導する。	A	A	<p>○時間を守る・挨拶をする・服装を整える・掃除をきちんとするなどの基本的なことを更に継続して指導していく。</p> <p>○皆勤者(77人)についてはこれを維持し、課外出席率(11月まで97.2%)については90%以上を達成する。</p> <p>○家庭学習時間1日平均90分以上を達成する。(1・2学期学習時間平均94分)</p> <p>○教務部と連携して、成績不振者の減少に努める。(1・2学期欠点保有者5人)</p> <p>○進路指導部と連携をして、早期に生徒の希望進路を決定する。</p> <p>○校外模試偏差値50・GTZB2以上(国数英)の生徒10名以上を目指す。(11月進研模試偏差値50以上:国数英2人、国語14人、数学4人、英語0人)</p> <p>○生徒会役員と連携して、学校行事の活性化を図る。</p> <p>○部活動顧問と密に連絡を取り、部活動の活性化に努める。</p> <p>○学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図っていく。</p> <p>○学年団全員で生徒を支援・指導していく体制を見直す。</p>
		心身の健康に努めさせ、皆勤者65名以上を達成する。	A		
	基礎学力の充実	各教科と連携して小テストや課題など家庭学習時間を増やす取り組みをし、基礎・基本的学習内容の習得を図る。	B	B	
		各教科の提出物を確実に提出させ、家庭学習時間1日平均90分以上を目指す。	B		
	進路目標の早期設定	HRや面談週間・三者面談などを通して、生徒の進路目標の早期設定を促す。	A	A	
		オープンキャンパスなどへの積極的な参加を促し、生徒の進路意識の向上を図る。	B		
	学校行事や部活動の活性化	学校行事の意義や目的を理解させ、意欲を持って積極的に参加させるとともに、リーダーシップのとれる生徒を育成する。	A	A	
		部活動を奨励し、生徒の忍耐力・協調性・社会性を培う。	B		
	学年団のチーム化	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の支援・指導をしていく。	A	B	
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりをする。	B		
第2学年	主体的に考え行動する態度の育成	学校行事、生徒会活動などさまざまな場面で自ら考え行動するよう促し、多くの経験から学ばせる。	A	B	<p>○次年度は様々な学校行事で中心的な立場で下級生を引っ張っていくことになる。指示を出すのは最小限度にとどめ、自ら考え行動する力を身につけさせる。</p> <p>○Classiを活用し、行事や節目ごとに自身の取り組みを振り返らせる。</p> <p>○現在行っている遅刻者指導を継続して行う。回数が多い生徒に対して、生活態度の見直しや改善を促す。</p> <p>○SHRなどを利用して挨拶や掃除の意義を話す。生徒一人一人が責任をもって役割を果たしクラスに貢献することで、帰属意識を高めさせる。</p> <p>○進路意識が低く、目標が定まっていない生徒に対しては二者面談をとおして進路について考えさせる機会を作る。</p> <p>○進路目標が明確な生徒に対しては、日頃の取り組みが進路実現に合っているか振り返らせ、前向きな声かけを行う。</p> <p>○定例の学年会議で、学校行事などの予定を確認し、見直しをもって指導にあたる。</p> <p>○生徒に関する状況を把握するなどして情報を共有し、問題が発生した際は連携を密にし、速やかに対応する。</p>
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努め、教育活動をとおして自己肯定感を高める。	B		
		手帳活用の指導をとおして、自身の生活態度を振り返ることで、先を見通して行動するなど自己管理能力を身に付けさせる。	B		
	基本的生活習慣の確立	心身の健康に努めさせ、年間の皆勤者80%以上を目指す。	B	B	
		各自に掃除箇所・役割を明確に示し、責任をもって掃除に取り組ませる。	B		
		福島高校生としての自覚と誇りを持たせ、それに相応しい服装・所作ができるように指導する。	A		
	進路目標の明確化	二者面談を年5回実施し、進路意識を高める。	B	B	
		HRや各種講演会をとおして進路について深く考えさせ、進路選択に必要な情報提供を行う。	B		
		学年集会や学年終礼をとおして学年団の教員が輪番で進路に係る講話を行う。	B		
	学年団のチーム力の向上	目標と価値観を共有して、協働的な教育活動を行う。	A	A	
学年団個々の資質能力に応じた役割を果たしつつ、互いに学び合い成長する。		A			
生徒の情報交換を密に行い、学年全体で安心・安全な学年・学級づくりを目指す。		A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○新型コロナウイルス感染症対策については来年度も状況に応じて適切な対応をお願いしたい。
A	○基本的生活習慣や学校行事・部活動の活性化などはよくできている。学年が上がっても定着できるよう、指導の継続をお願いしたい。 ○家庭での学習時間の重要性について、生徒にしっかり意識付けを行ってほしい。
A	○次年度は進路意識を高める具体的な取り組みをしていただき、早期の進路目標を設定できるよう指導をお願いしたい。 ○進路目標を保護者と生徒で考えるための情報提供をさらに充実させてほしい。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
第3学年	社会性を身に着け、自己研鑽できる生徒の育成	社会人としての基本「挨拶励行」「清掃徹底」「時間厳守」「規範意識の向上」を確実に身に着けさせる。	A	A	A	
		基礎的な生活習慣の確立を目指すとともに、1ヶ年皆勤者80名以上、3ヶ年皆勤者40名以上を目指す。	A			
		家庭学習(1日120分以上)を毎日継続的に実施することのできるよう指導するとともに、何事にも諦めずに取り組ませる。	B			
	自立力(自律力)の育成	最上級生としての自覚を持たせ、部活動・生徒会行事・学校行事でリーダーシップが発揮できるよう部活動顧問など担当教員と連携して行う。	B	B		
		手帳を用いて計画的に行動することのできる生徒の育成に努めるとともに、日々の学習計画・学習時間の管理を行う。(学びのポートフォリオの作成)	B			
		学校行事の意義や目的を、7Heartsと関連させて理解させるとともに、それらに意欲を持って積極的に参加させ、体育大会において「実践」につなげる。	C			
	「なれる最高の自分になる」個に応じた丁寧な進路指導	進路目標を明確に設定できるよう、定期的(月1回以上)に2者面談または3者面談を実施する。	A	A		
		「総合的な探究の時間」の課題研究を通して、社会に求められている新しい学びの力を育成し、地域企業・大学と連携し生徒の地域貢献の志を育むとともに主体性を磨く。	B			
		進研模試・公務員模試などの外部模試を利用し、生徒の学力および学習状況を把握するとともに、それらを活用した検討会を実施し生徒の進路実現につなげる。	A			
	学年職員の連携・チーム化	学年会議を毎週行い、学年団の共通理解を図り、学年全体で生徒の指導を行う。	A	A		
		学年職員で業務を分担し、組織的にかつ協力的に業務に取り組む雰囲気づくりを行い、学年職員一丸となって生徒を支える体制をつくる。	A			
		学校生活アンケートやいじめアンケートなどを通して、気になる生徒の教育相談を行うなど、いじめのない安全・安心な学年・学級づくりを行う。	A			
総合ビジネス科	基礎学力の定着と高度な資格取得に基づく進路目標の実現	全国商業高等学校協会主催検定において、ビジネスの基礎となる検定(3・2級)の全員合格を目指す。	B	B		
		全国商業高等学校協会主催検定において、生徒各自の得意とする検定に挑戦させ3種目1級表彰者数20名以上を目指す。	B			
		日商簿記検定など高度な資格取得への挑戦を促すとともに、また小論文指導や面接指導等を早い時期から実施することで進路指導の充実を図る。	B			
	地域社会の探究と職業人としてのモノの見方と考え方の育成	職業人として言葉遣いやビジネスマナー等の指導を行い、その重要性を考える機会を設定する。【社会人特別講師招聘事業(1・2年生(1回)・3年生3回)】	B	B		
		地域の商工会議所や大学及び関連企業と連携をとり、地域経済の現状やビジネスに対する心構えを学ばせる。【大学訪問(1年生)・地域産業連携事業(1・2年生1回)】	A			
		地域社会について探究し自身の課題を設定する活動や「総合ビジネス科実践発表会」等での成果を発表する活動を通してキャリア教育の充実を図る。	B			
	地域社会との連携と広報活動の充実	各学年の学習活動や進路状況を「総合ビジネス科ニュース」に記載し、地域の中学校および生徒や保護者等へ配布する。	A	A		
		中学校への出前授業や進路説明会等において、総合ビジネス科の学習内容について生徒の声を反映させた丁寧な説明を行う。	A			
		「課題研究」等授業の一環として、地域のイベントに積極的に参加し日頃の学習成果を発表することで広報活動に繋げる。(年2回以上)	B			
	生活デザイン科	基礎学力の定着と教科における専門性の向上	基礎学力の定着のために学科において学習習慣の確立や課題提出の徹底を図り、放課後等を活用した個別指導(実習を含む)を実施する。	B	B	
			家庭科技術検定など授業で学んだ知識・技術を生かした検定取得に積極的に挑戦させ、土曜講座を活用し、合格率90%以上を目指す。	A		
			ファッションデザイン画や調理コンクール等へ応募する機会を増やし、個のアイデアを生かした指導を行い、県大会レベルでの受賞を目指す。	B		
他者と協働する力の育成と進路目標の実現		未来を切り開く人材育成事業(5月～2月)や社会人招聘事業(年2回)を通して、3つのコースの特色化を図り、専門性を高める。	A	A		
		外部講師講座や上級学校訪問など、自己の進路を考えさせる機会を各学年において設定し、進路目標の明確化を図る。	A			
		他者と協働して行う取り組みや課題研究発表会等の探究活動を通して、コミュニケーション能力の育成や自己肯定感の向上を図る。	B			
地域社会への貢献と広報活動の充実		地域と連携した行事への参加や地域交流を図り、体験や実習を通して職業観を育成する。	B	A		
		ファッションショー(11月)や卒業茶事(1月)など学びの成果披露の場を設定し、それに向けて準備を積み重ねることをとおして、生徒の主体性や達成感を高める。	A			
		生活デザイン科新聞発行やHP更新など広報活動を行事毎に積極的に行い、中学生や保護者・地域の方に生徒が活躍する姿を発信する。	A			
						<p>○卒業後に規範意識をもった生徒を育成する。</p> <p>○3ヶ年皆勤者も46名と目標を達成したが、3学期に遅刻・欠席が増えるなど、自律心の成長が課題である。</p> <p>○学習習慣については全体平均92分で目標には届かなかった。全体的な学習意欲向上を図る取り組みを考える必要がある。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響もあり、予定していた体育大会も中止となり、リーダーシップの育成を図ることができなかった。学校行事ができない中で、いかにしてリーダーシップを育むか、方策を検討する。</p> <p>○綿密に面談を実施するとともに、進路指導課と連携して取り組み、就職・公務員・進学ともに生徒の第1希望での進路を実現する。</p> <p>○総合的な探究の時間において、3年間の集大成として地域の課題解決に取り組む。</p> <p>○進路内定者への事後指導が必要である。</p> <p>○毎週定例の学年会を通して、生徒の情報交換を密に行い、いじめ防止・不登校を生まない指導につなげる。</p> <p>○学年団の共通認識を図り組織的に取り組む。</p> <p>○各分掌との連携を十分に行っていく必要がある。学年と分掌間の情報交換の場が必要である。</p> <p>○受験させる検定の精選及び目標の再検討を図り、高度な資格の取得については4月当初より計画的に指導を行っていく。特に、新教育課程に関わる分野では検定の精選を行う。</p> <p>○新教育課程のコースや進路に合わせ資格取得のための特別講座等を企画し実施する。</p> <p>○フィールドワーク等、地域に向かい、地域経済の現状について考える機会を設ける。また、1年次の地域連携や未来人材育成事業においても事前の研修に時間をとり充実させる。</p> <p>○生徒の希望進路に合わせて大学や企業連携など活動の幅を広げる。</p> <p>○広報の対象や方法を再度検討し、質を向上させる。入試広報課と連携し、広報誌(総ビニュース)やHPにおいて総合ビジネス科の広報活動の充実を図る。</p> <p>○「課題研究」において、大学との高大連携を検討する。</p> <p>○新教育課程におけるコース制に対応した家庭科技術検定の受験の見直しと精選を行う。</p> <p>○観点別評価では、適切な評価規準と評価方法を共通理解のもと明確に設定する。</p> <p>○専門性の向上を図るため、1年次からのコンクール応募の促進と受賞を目指した指導を実践する。</p> <p>○未来を切り開く人材育成事業、社会人特別招聘事業において行事の精選とコース専門性の特色化を図る。</p> <p>○各学年において進路目標の明確化につながる機会を設定し、早期に進路に対する意識を高め、幅広い視野を持たせた進路実現を目指す。</p> <p>○コロナ禍における地域行事や交流の新たなあり方を見直し、感染対策を講じた上で可能な方策を検討する。</p> <p>○SNS(Classi含む)・生デ科新聞等を活用して、生徒の学習活動や学習成果を速やかに且つ幅広く発信する。</p> <p>○校外活動(産業教育フェア等)や地域連携事業においては計画的に準備をし、広報活動に繋げる。</p>

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<p>○リーダーシップを育む指導は、生徒の将来のために必要である。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により体育大会が中止されたが、今後は「withコロナ」の考え方により、実施方法などを考えていくことが必要だと思う。</p>
A	<p>○専門性の高い素晴らしい教育が行われている。生徒には資格取得の利点を十分に理解させ、さらなる学科の充実に努めてもらいたい。</p>
A	<p>○専門性の高い素晴らしい教育が行われている。生徒には資格取得の利点を十分に理解させ、さらなる学科の充実に努めてもらいたい。</p>
評価項目以外のものに関する意見	
<p>○生徒の健康管理は十分行えているようだが、教職員の心身の健康管理についての方策も掲げていただけたらと思う。</p>	

### 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新型コロナウイルス感染症対策は継続して適切に対応していく。
- ・生徒の学習意欲と学力の向上のため、「わかる授業」を実現し、家庭学習時間の確保に繋げ、学習意欲・進路意識の向上を図る。
- ・系統的・探究的なキャリア教育の推進により、生きる力や自立心を育成する。
- ・新しい大学入試制度に対応した指導を心掛け、自らの有為さを自覚し、表現できる生徒を育成する。
- ・いじめや問題行動はどの生徒にも起こりうることを念頭に、問題の早期発見に努めるとともに、SNS使用のマナーや危機管理についての指導をさらに充実させる。